

## 坂出市行財政問題懇談会 議事録

日時 平成30年11月12日（月）14時00分～15時30分  
場所 合同庁舎4階大会議室  
議題 第6次坂出市行財政改革大綱（案）について

【内 容】 委員の互選により会長，副会長を選出し，会長による議事進行のもと，事務局より提案した第6次坂出市行財政改革大綱（案）について審議を行った。

<質 問> 今後，坂出市の公共施設をどのようにマネジメントしていくのか。方向性や考え方を教えてほしい。

<<回答1>> 高度経済成長期に多くの公共施設等を建設し，建設から40年あまりが経ち，今後大規模な修繕や更新が必要になってくる。そこで国の要請もあり，平成28年12月に公共施設等総合管理計画を策定した。今後は，公共施設等総合管理計画に基づき，個別の施設ごとに計画を策定していき，人口の減少に伴って必要性が下がってきた施設については統合や廃止も視野に入れ，検討していく。また，改修についても，計画的に改修を行うことで毎年の費用負担が大きくならないように努めていき，少しでも長寿命化が図られるよう計画を策定していく。

<<回答2>> 角山環境センターは大規模改修が必要になってくる。他にも人工土地の耐震化，火葬場，来年休館となる市民ホールの代替施設等を今後どうしていくのか，給食センターをどうするかなど検討していかなければならない施設が多い。その中で，優先順位を考え，PFIの活用も検討していく。

<質 問> 8ページでICT化を推進することによりとあるが，具体的な施策のイメージはあるのか。

<<回 答>> 電子申請をはじめとしたICT化は市民にとっても利便性の向上につながる。また，マイナンバーカードを活用したワンストップサービスなどの利便性向上にもつながる。ICT化を進めることによって，これまでのように役所に行かなければ手続きができないといった手間が解消できるなど市民サービスの向上につながる。

<意 見> 電子化は利便性がある一方，行政以外のサービスで，電子化することによってかえって分かりづらくなってしまふことがあったため，分かりやすいサービスの充実に努めてもらいたい。

<質 問> 市民共働の推進とあるが、市は全体的にまとめて管理しているのか。坂出市にはいろいろな団体があって、各市民団体が単体では一生懸命頑張っている感じはするが、各団体に頼りすぎてはいないか。

《回 答》 いろいろな分野で共働していくことが必要であり、特ににぎわいづくりについては、いろいろなイベントをしていくにあたって、市民の意見を聞きながら市民の自発的な部分を大事にしている。

<質 問> 丸亀市と坂出市の違いについて、丸亀市はイベントを丸亀城で実施するという核があるが、坂出市には核となる場所やインパクトがなく、いろいろなところでいろいろなことをする感じになっていると思う。

《回 答》 例えば、まなとピアでは、市民が一つのところに集まって発展するということがあった。健康についても、ラジオ体操など市民の中で広がってきていて、それを市民共働の一つとして捉えている。いろいろな分野で、以前よりも市民が率先してやっていくという空気になってきている。

<意 見> 何かイベントをするときにいつも駐車場が問題になる。駐車場がないと参加しにくいので、イベントの時だけでも民間企業と協力して駐車場を使えるようにするなど考えてほしい。

<質 問> 10ページの大規模災害に備えた体制の整備の中で、自主防災組織の活性化や職員訓練といった文言はあるが、大規模洪水の際にどこへどのように逃げればいいのかといった避難場所や避難訓練の記載がない。地域防災計画の見直しの中に含まれるのか。

《回 答》 災害時の避難経路についてはハザードマップという形で各家庭に配布している。具体的にどの方向に避難すればいいかについては明示していないが、それに関しては、それぞれの自主防災組織で地域の実情に応じて普段から相談してもらおう姿勢をとっている。

防災に関しては、地域防災計画の中で詳しい内容を記載しており、行革大綱では基本的な考え方を記載しているのでご理解いただきたい。

<質 問> 12ページにホームページの充実とあるが、何人がホームページを見たか分かるのか。また、閲覧回数は増えているのか。

《回 答》 平成29年度の年間アクセス数は約63万件である。平成26年度は約61万件、平成27、28年度は約64万から65万件で推移している。災害情報等やイベントの中止情報などで若干伸びるケースはある。

なお、今年度よりホームページの抜本的な見直しを行い、以前よりも内容が見やすくなっているため、平成30年度は例年よりもアクセス数に期待している。

<質 問> 14ページの自主財源の確保の項目でふるさと納税とあり、別の資料で見たところ、坂出市に入ってきたのは8,880万円とあったが、逆に、市民が他市に納税する場合もある。単純に比較はできないかもしれないが、収支はどのようになっているのか。

《回 答》 流出額は3,000万円から4,000万円の間と記憶しており、返礼品も含めて比較しても、若干、入ってきた方が多い。

<意 見> 今後、人口減少に伴い、市の税収の伸びは期待できないとのことだったが、なぜ生産年齢人口が減少しているのか、なぜ企業が離れていっているのか坂出市として検証してもらいたい。

また、坂出北インターチェンジのフルインター化が決まったが、フルインター化になって企業誘致を進めていけば生産年齢人口も増加し、市税も潤うと思うので、物流の拠点となるよう、坂出市の行政を展開していただきたい。

<質 問> 第5次大綱で市債残高の目標は120億円であって、今回の第6次大綱の市債残高の目標が140億円で20億円多くなっているが、どのような計算で20億円増えているのか。

《回 答》 平成29年度より新庁舎の建設工事に着手しているが、建設費だけで約38億円の計画となっていて、約半分を起債でまかなうため、20億円増加すると見込んでいる。それ以外の部分でなるべく市債残高を増やさない方針で、計画的に財政運営に努めていく。

<質 問> 企業誘致で定住者の増加という面で考えると、企業だけではなく、住む場所、いわゆる社宅等の誘致も必要になってくるのでは。

《回 答》 平成27年に策定した総合戦略は、人口減少対策に取り組んでいく計画である。その中で、坂出市は働く場所であっても住む場所ではないとの指摘をされている。それを踏まえて社宅に対する補助金ではないが、新婚世帯に2年間の家賃補助をする施策を行っていて、好評を得ている。新婚の方に住んでもらってその間にお子さんができれば、それ以降も坂出市に定住してもらえることを期待している。

また、駅周辺を中心部に、新たに一定以上の規模のマンションを建てた場合に建設補助を行う、まちなか中高層共同住宅建設促進事業を創設した。これは、県内他市では行っていない制度であり、現在1件の申請が出ている。これからも、働いている方に住んでもらえるようなまちづくりに努めていく。

<質 問> 公共施設等総合管理計画の中では、更新費用の推計は1,730億円となっており、第6次行革大綱の4ページの1,525億4千万円とは額に差があるのはなぜか。

《回 答》 この計画をつくった平成28年時点では、水道事業が香川県広域水道企業団に移行する前であったため、公共施設等総合管理計画に水道事業のインフラ施設が含まれている。今回の第6次行革大綱では、広域化に伴って水道事業のインフラ施設は除いている。

<質 問> 4ページの坂出市の現状で、今後人口が減少し、財政が厳しさを増していくとあるが、何を重点的に行い、坂出市の特色を出していくのか。

《回 答》 少しでも人口を増やせるように子育て支援施策や社会増に結びつくようなさまざまな施策に現在取り組んでいる。行財政改革の目的は、坂出市に住んでよかったと思ってもらえるような行財政運営を行っていくことと認識している。現時点でどの部分を削減するといったことをいうのは非常に難しい。

しかし、公共施設で人口減少に伴い縮小できる部分もあるのではないかと考えている。特に公共施設については今後費用がかかってくるので、今後の大きな課題となっている。

<質 問> 量的な話は数字で表せるが、質的な話はなかなか数字で表せない。市民サービス全般についてアンケートはとっているのか。

《回 答》 いろいろな計画をつくる際に計画の趣旨に沿ったアンケートはしているが、全般的な住みよさというテーマであれば、基本構想、いわゆる総合計画的なものをつくるときに市民アンケートを行っている。

しかし、それは5年おきだったり10年おきだったりするので、毎年定点的に変化を捉えていくようなアンケートは行っていない。

<意 見> ご承知のとおり、昭和23年に港町坂出が誕生した。また、昭和26年には、坂出港が重要港湾になった。それ以降は水島港におかれており、これを回復しようという話であるが、おそらく、坂出市のみなと課が努力されていてさらに前進していくのではないかと考えている。やはり坂出は塩の町である。1829年に久米通賢が塩の町坂出をつくって、その塩を搬出するために港ができた、そういう歴史がある。DNAは塩と港である。これを原点に頑張ってください。そうすれば、港湾はさらによくなっていく。

同時に5万2千人の人口であるが、昼間人口は6万人いる。人口が減るというのではなく、5万5千人にしたいという気迫でやらないといけない。企業誘致すれば固定資産税が増えていく。先ほど述べられた新婚世帯への家賃補助はすばらしいことである。

それと坂出市には高校が4つあり、大きな病院が3つあるすばらしい町である。医療・福祉に関しては先進都市である。だから、我々も自信をもって坂出市を良くしていかなければならない。

山の上に避難する際に、老人がどうやって逃げるのか。みんなが自助・共助・公助を進めていかなければならない。だから、我々は坂出市に自信と誇りを持って頑張らなければならぬし、よその町に負けてはいけない。

大綱の中に職員のスキルアップとあるが、さらにスキルアップしていただき、すぐやってくれるところが行政のいいところ、坂出市は何でも早いと言われるような町になればいいなと思う。

自主防災に関しては、全体のことを考えずに、各々の自主防災を考えてもらえれば全体に波及して良くなっていくと思う。

商店街に行かない理由を自分なりに分析すると、瀬戸大橋ができて30年になるが、商店街を区画整理しないといけなかったのではないかと考えている。瀬戸大橋ができる前は、島の方々が商店街で買い物して船に乗って帰っていた。瀬戸大橋ができた今は、島の人たちは船に乗らないので、商店街に寄らなくなった。これが問題となっているので、市内の再開発が待たれるところである。

《回 答》 市立病院が新しくなって商店街を通る人が増えた。そこも踏まえて、商店街がどうあるべきか、みなさんの知恵をお借りしながら再開発も視野に入れて考えていく。

<意 見> 坂出はいいところなのでもっとよくしていかなければいけない。ふるさと納税の返礼品も充実していかなければならない。香川県はうどん県を宣言している。ところが、うどん県三金時市というとな誰も分からない。

<議 事> それでは、本日お諮りした案をもって「第6次坂出市行財政改革大綱(案)」とする。以上で懇談会を終了する。